

測る ↓ 遺す・活かす

3月に入り、小牧山城の調査現場に差し込む陽の光にも少しずつ春の気配が感じられるようになってきました。

今年度の調査は予定していた調査区内の掘削作業に続いて、石垣などお城のあった時代の地面の形状を測量し、記録する作業が完了したところです。



写真1 土層図作成の様子

測量は土の堆積状況などを手作業で測り、土層図等を作成する作業（写真1）と、レーザー計器やカメラを用いた詳細な測量（写真2）により平面図や立面図、3Dデータを蓄積する作業の両方を実施し、発掘調査の掘りあがりの状況を正確にデータや図面として記録します。この作業を行うことにより、小牧山城の当時の姿を知る情報を後世に正しく引き継ぎ、**遺す**ことができるのと同時に、今後予定されている史跡整備で設計等を行う際の基礎資料として**活かす**ことができるのです。



写真2 写真測量の様子

小牧山城

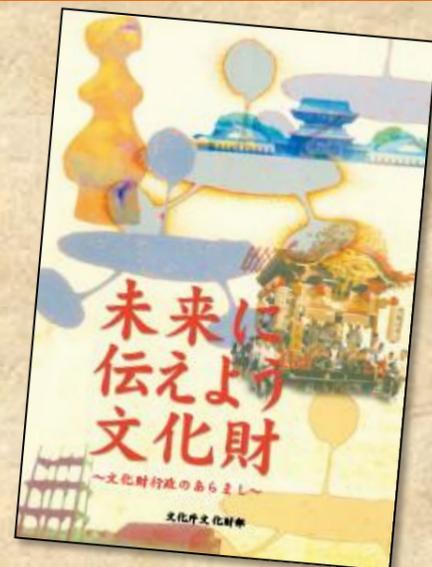
はっぐがわら版

第12号

20150316

～「国指定史跡」小牧山～

小牧山は昭和2年に指定を受けた国の史跡です。愛知県内で3番目に指定を受けたという歴史ある史跡です。「国指定史跡」とは、日本の歴史を語る上で、重要な遺跡であると国が特に認めた遺跡にのみ指定されるもので、『文化財保護法』により国（文化庁）の厳密な指導・監督のもとで史跡の管理や保護を受けます。歴史の証人ともいえる史跡には今の私たちが歴史を体感する“活用”と将来の人々に伝える“保護”の2つの要素が含まれます。



文化庁の文化財パンフレット表紙

危険ですので調査区内には立ち入らないでください

小牧市教育委員会